

## 活動報告：ミュージックチャイルド

### 1. 「ミュージックチャイルド」について

広島文化学園大学・短期大学 子ども・子育て支援センターでは、平成22年度より特別な支援を要する幼児・小学生を対象とした音楽療法「ミュージックチャイルド」を、非常勤講師とともに行ってきた。23年度から「音楽療法実習Ⅰ」の実習先として、音楽学科の2年生(音楽療法士資格取得希望者)「音楽療法実習Ⅰ」履修学生が、非常勤講師の行う音楽療法セッションを見学している。27年度から、音楽療法を受けたい児童を積極的に受け入れているが、その時の助手を、音楽療法資格取得希望者に任せ、本格的な学外実習施設として機能している。

「ミュージックチャイルド」の目的は、音楽をツールとし、意図的計画的に子どもの発達を支援することである。対象児の行動の変容や発達を促進するとともに、対象児の表現力の向上により、特に保護者が子どもの変化を喜び、より望ましい親子の愛着形成が成果として見られている。

### 2. 令和元年度の実践報告

「ミュージックチャイルド」で行う音楽療法の、インテーク面接をはじめとする、アセスメント、目標設定、実施計画の作成、セッション、保護者とのカンファレンスの流れで実施される。令和元年度は、卒業生の山崎賀子先生・松原美早先生(いずれも音楽療法士1種・2種資格取得者・音楽療法士)が担当者となり、筆者がスーパーバイザーを務め対象児らと関わった。また、セッションでは音楽療法士の資格取得希望者の中から、児童領域に興味を持ち、特にミュージックチャイルドでのセッションに対して熱心な姿勢を見せる学生を助手とした。

セッションの実施回数は、対象児：兄弟(兄6歳A君・弟3歳B君) 令和元年度後期計5回、音楽療法を実施した。

#### 対象児の概要

A君：発達障害・衝動を抑えられない。多動傾向。  
B君：軽度発達遅滞。小さい頃はてんかん発作が起こったが最近では起こっていない。内向的で自己を表現するのが苦手である。A君には音楽活動を通して自己をコントロールする力を身につける、B君には音楽活動を通して自分の世界を外に向けて広げていくことを目的として、実施していた。

### 3. 令和元年度の新しい実践報告

令和元年度は、本学学生【本学4年生の女子学生・本学2年生の男子学生】が担当者となり、筆者がスーパーバイザーを務め、学校に行けない中学3年生(不登校児)とギター教室を開始した。

セッションの実施回数は、令和元年度後期計6回、ギター教室を実施した。

#### 対象児の概要

C子さん：中学高生生活のこれまでほとんど学校に行くことが難しかったC子さんに、興味のあるギターで簡単な曲を演奏できるようになることを通して、自己肯定感を持ってもらい、学校に登校できるようになることを目的として実施していた。

### 4. 指導者の立場より

令和元年度は1月後半(令和2年1月頃)から新型コロナが流行し、A君B君の音楽療法是1月いっぱい、C子さんのギター教室は2月いっぱい中断した。これまでのセッションを通して、卒業生の先生方、在学生たちと、対象児や保護者と関わりながら、毎回、音楽療法的な内容の質や量について、試行錯誤での連続だった。その結果、保護者が驚かれるくらいA君・B君が積極的に音楽療法士と関わる場面もみられ、音楽の可能性を再認識することが多く見られた。またギター教室では、不登校であったC子さんが徐々に学校に戻って行くことが出来始めたところで中断となり、大変残念な結果となっている。今後新型コロナの影響が少なくなった時点で、それぞれのセッションの再開を計画している。

### 5. 改善点と将来構想

令和元年度はいずれのセッションもコロナの影響により、これから良い結果へと導かれようとする時点で、セッションを中断した。令和2年度中にセッションを再開できるかどうかは、現段階では分からないが、今後も引き続き、音楽療法をもっと勉強したいという意思をもった卒業生で音楽療法士として活躍中の先生や、現在大学で勉強中の学生にお願いし、多くの対象児と、より丁寧なセッションを展開していく予定である。セッションの組み立て方や対象児とのかかわり方など、様々な問題点を考慮しながら、それぞれの対象児たちに対する音楽療法的な効果を実証していきたいとか考える。本学の卒業生から、一人でも多くの音楽療法士の専門家が育つよう望んでいる。

(文責：学芸学部 音楽学科 和田 玲子)